



栄小学校だより

令和4年2月15日(火) No.36

○「三重県まん延防止等重点措置」延長を踏まえた学校における新型コロナウイルス感染症対策について

2月14日(月), 鈴鹿市教育委員会より上記の通知がありました。内容は、以下の通りです。

本年1月には新たな変異株であるオミクロン株への感染拡大により、極めて短期間で全国的に感染者が急増し、第6波に至っています。三重県内においても「まん延防止等重点措置」が適用され、本市は重点措置区域に指定されるなど、今もなお予断を許さない状況となっております。特に、第6波では、10代以下の感染者数の増加が急速に進み、市内小中学校における感染拡大に歯止めがきかず、学級閉鎖などが相次いでいます。(中略)

このような状況の中、各校においては、子どもたちの成長に欠かせない有意義な活動である「卒業生を送る会」や「卒業式」等に向けた準備を進めていただく時期ではありますが、「学校が安全であるところとなり、子どもたちの健やかな学びを止めない」ためには、一層の感染防止対策が求められます。

各校におかれましては、「学校教育活動を継続するため」に、自校の感染状況を見極めながら、学校医等の関係機関とも連携し、慎重に現在の活動の見直しや工夫を図るなど、新型コロナウイルス感染症対策の強化・徹底をお願いします。

1 感染症対策を講じてもお感染リスクが高い学習活動

特にリスクが高い以下の活動については、全国的にもクラスター(感染者集団)が発生した事例が報告されているため、感染拡大防止のための対策を最大限講じること。

- ・長時間、近距離で対面形式となるグループワーク
- ・室内で近距離になる合唱、リコーダーや鍵盤ハーモニカなどの管楽器の演奏
- ・家庭科における近距離で活動する調理実習
- ・体育や部活動における「密集する活動、近距離で組み合ったり接触したりする運動」や「近距離での大きな発声、激しい呼気を伴う運動」

4 5~11歳のワクチン接種

ワクチン接種の対象が5~11歳に拡大されることになりました。本市でも3月から開始される予定です。ワクチン接種については、希望者の同意に基づき行われるものであり、接種の強制や接種の有無を尋ねること等、偏見や差別につながる行為は絶対に行わないこと。

7 保護者への協力

家庭内感染を防ぐためにも、添付したチラシ『家庭内でご注意いただきたいこと~8つのポイント~』(厚生労働省)を保護者に配付いただき、一層の注意喚起と協力を促してください。

(2, 3, 5, 6 は略)

1の感染リスクが高い学習活動については、通知前より感染リスクを抑えた授業を行ってまいりました。今後はさらにその内容を吟味し徹底していきたいと考えています。

7につきましては、本日学校だよりに合わせて配布しました。「家庭内感染を防ぐことにより、学校へ感染を持ち込ませない」ことが、学校クラスターを防ぐ一番の手立てであると考えます。

各ご家庭においては、同居家族が陽性認定や濃厚接触者となった場合は陰性が確認されるまで登校を見合わせる(自宅待機)をお願いします。また、お子さんを含めたご家族に発熱等の症状がある場合も感染リスク等を考慮し大事を取って学校を休ませるなどの判断をお願いします。

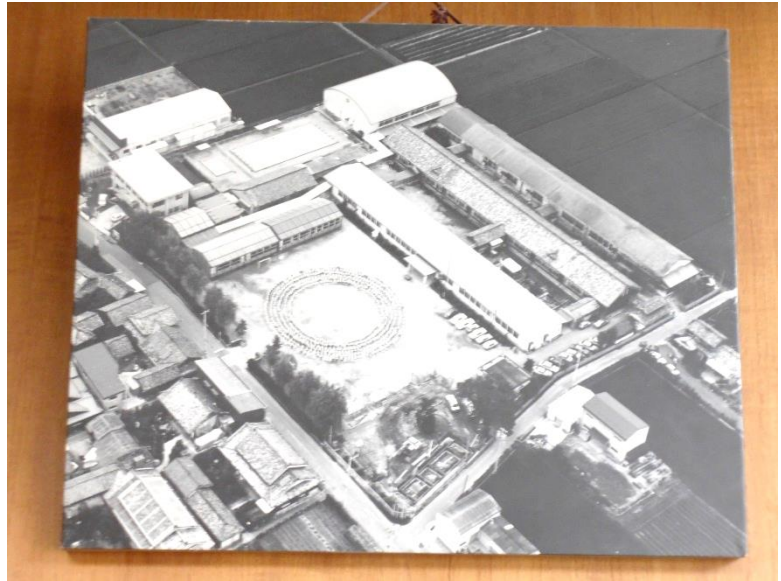
「学校が安全であるところとなり、子どもたちの健やかな学びを止めない」ための方策にご理解とご協力をお願いします。

○校長室の写真

栄小学校の校長室には、右の写真が飾ってあります。昔の栄小学校の航空写真です。

写真には児童で作った校章の下に「1979」と映っていることから、昭和54年であると思われます。（違っていたらごめんなさい）

校舎は木造で、体育館やプールは今のところとは違う場所にあります。また、現在学校敷地北にある「市民センター、学童、栄幼稚園」はありません。ただ、周りの民家や学校にある樹木の中には今も残っている所もあるようです。



☆特集 保護者に向けた「親塾シリーズ」No.14

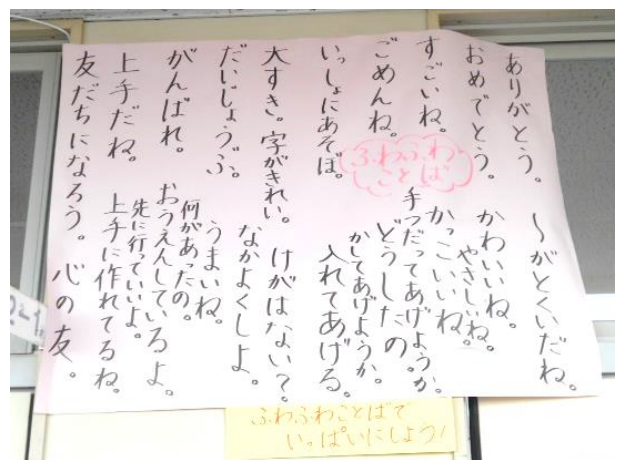
○「魔法の言葉」は、人をやさしくする。

2年生教室の廊下に「ふわふわことばでいっぱいにしてよう!」という掲示物があります。

内容を見ると、

- ・ありがとう ・おめでとう ・すごいね
 - ・ごめんね ・いっしょにあそぼ ・大すき
 - ・字がきれい ・だいじょうぶ ・がんばれ
 - ・上手だね ・友だちになろう ・～がとくだね
 - ・かわいいね ・やさしいね ・かっこいいね
- などの言葉です。

半世紀以上生きている私が見てもとても心地よくなる言葉です。このような言葉を上手に使える子どもになってほしいです。



授業でどの学年も人にやさしくなる言葉の勉強をしています。この言葉の勉強は、やさしくなるだけでなく、「コミュニケーション力向上」にもつながります。

「北風と太陽」の童話の教訓と同じように、言葉がけも、「ちくちく」する北風でなく、「ふわふわ」なる太陽でありたいものです。「ふわふわ」のことばで育った子どもは、他人にも「ふわふわ」ことばで話します。この連鎖がとても大切となります。

子育ては、日々が勝負ですので、悠長なことばかりではないのは、私も3人の子どもを持つ親ですので知っているつもりです。少し時間をおいて頭の中で考え、「ちくちく」から「ふわふわ」への言葉の変換をして子どもに接してください。

聞いた子どもが委縮する「ちくちく」ではなく「ふわふわ」で子育てをしてみませんか？

栄小学校は、子育てに頑張る保護者のみなさんを応援しています。